

## 美和と楽寿と これからの地域×福祉を考える

高齢者が4割以上というこれからの社会において、介護や福祉はますます重要に。

しかしそれは単なる一施設のサービスとしてではなく、  
地域と連携した「地域福祉」こそ、求められるようになるはずです。

47年目を迎える楽寿会もその意識を強く持ち、  
地域住民の皆さん、様々な要素と結び付いたサービスや取り組みを目指しています。  
今回は、楽寿会にとってなくてはならない美和地区の様々な人・場所を訪ねました。

特別養護老人ホーム  
楽寿の園 副園長  
有馬万紀子さん

美和学区自治会連合会  
会長 前田利文さん

社会福祉法人 楽寿会  
会長兼理事 長  
有馬良建（よしたけ）さん

地域に溶け込み、助け合い、共に豊かな暮らしを創る存在を目指して。

まずお会いしたのは、美和学区自治会連合会の会長、前田利文さん。市街化調整区域も影響してか美和学区は高齢化率が50%を超えているそうで、だからこそ「楽寿会が地域に根付いた活動をしたい」と心強いと言います。実際にこれまで「地域の敬老会には職員を派遣していただいて、健康体操などをやってもらっています。また静岡市のS型デイサービスにおいても、美和地域包括支援センターからアドバイザーを受け、機能訓練のゲームを実施するなど、多大な協力をしてもらっています」とのこと。一方、



「楽寿会も前田会長に協力をいただき、運営推進会議に参加してもらっています。福祉・介護を通じて地域の暮らしを支えることを目指している楽寿会。有馬理事長も、「地域と共に」ということを大切にしています」と繰り返し強調します。そのためには、地域のの人に安心して頼ってもらえる存在になることが不可欠ですが、高齢者施設は直接利用しない方には実態がわからないということも起こり得ます。そこで、地元の方に施設内での会議に参加してもらうことで透明性に努めているのです。「開かれた施設として、楽寿会のサービスや職員の仕事を知らせてもらい、施設に

対するご理解を深めていただきたいです」と有馬理事長。地域の方の目があることで、サービスの質の向上や職員のやる気につながることも考えています。さらに、有馬理事長は美和学区自治会連合会の相談役を務め、地域の集まりにも顔を出すそう。「楽寿会が介護の責務を全うできるのは、地域があつてこそ、ですから私も地域に対してできることはしたい、地域のお役に立てればという強い思いがあるのです」と理事長。まさに持ちつ持たれつの信頼関係を築いています。

楽寿会は創設以来、施設福祉と在宅福祉の有機的で一体的な連携を図り、住み慣れた地域でその人らしく最期まで生活する、エイジング・イン・プレイスの実現を目指し、実践してきました。それは、



は、福祉の力を一番発揮できるのは地域福祉だと考えているから。そしてそのために、地域との信頼づくりが地域福祉を前進させる強力なバイタリティーになると、理事長をはじめ、楽寿会の皆さんは信じているのです。地域福祉を機能させるためには、地域の民生委員や開業医の協力、住民同士のネットワークが不可欠。実際に、在宅支援のプランの中にボランティアによる地域支援を組み合わせたことも少なくないそうです。拠点である施設の運営、そこから地域に入り込んで最適なサービスを展開していく地域包括ケアの実践には、地域の協力と充実した環境がなくてはなりません。だからこそ、地域に住む方々と誠意をもってお付き合いすることをお願いしています。

地域の行事や楽寿会の活動で、相互に連携。

美和学区では、住民の皆さんで美和桜（河津桜）を育て、開花に合わせて美和桜まつりを開催。各自治会や団体の協力なくしては盛り上げられないと言います。楽寿会もそれを支える一員となっています。昨年、今年もコロナ禍で中止となっていました。例年、甘酒の出店をし、大盛況だそう。また、

楽寿の園の防災訓練は地域と合同で行ないます。地元の消防分団にも協力してもらいながら、災害時の対応や避難の仕方を確認し、もしもの時に備えています。新年には、消防第30分団による放水が楽寿の園で実施され、有馬理事長はその頼もしい姿に地域の誇りと感謝を感じるそうです。このような互いを尊重する気持ちも、豊かな暮らしを営む地域に欠かせないものでしょう。



1.前田会長が参加する、楽寿の園運営推進会議。2.美和桜まつりの出店の様子。3.4.消防第30分団、地域と合同で行なう防災訓練。



小学校と共に “育てる福祉”にも取り組んでいます。

楽寿会が大切にしていることの1つに、育てる福祉があります。子どもたちにお年寄りへの思いやりの心を育ててもらおうと、地元の美和・安倍口・足久保小学校で授業をお手伝い。今回は、楽寿の園副園長の有馬万紀子さん（以下、万紀子さん）が、6年生のキャリア教育と4年生の福祉教育の授業を行なっている美和小学校の松浦校長先生を訪ねました。「私は初任校が美和小学校なんです。来年の定年もここで迎えることになり、美和地区との縁の深さを感じています。現在、私自身も家族の介護をしていて、介護職の方に世話になり助かっています。楽寿の園も広く地域や福祉を支えているのだからと施設を眺めるたびに感じていました」と松浦先生。以前から介護や福祉の話子どもたちに聞かせたいと思っていたそうです。それが先日、安倍口小学校と足久保小学校と3校同時にオンラインでつなぎ、6年生のキャリア教育の授業として実現。介護職の方から直接お話を聞けて「本当に嬉しかった」と言います。楽寿会が、言葉掛けを大切にしていると聞き、



おじいちゃん、おばあちゃんに掛ける言葉が変わった子もいたようです。また、4年生に向けてユニバーサルデザイン（UD）の授業も実施。万紀子さんからは子どもたちへ、体の不自由なお年寄りが安全に靴下を履けるための便利グッズ（自助具）を考える、「ミッション」が与えられました。「UDの授業を通して、手すりなどハード面と同時に思いやりなど心のUDの大切さを伝えたいと思い、子どもたちに主体的に、相手の立場に立つて考えてもらえるような言葉を選びました」と万紀子さん。それは功を奏したようで、「ミッション」という言葉が絶妙でしたね。子どもたちはすこやかに気になって

考えていました」と松浦先生。子どもたちが「先生、俺、今ミッションのことを考えているよ」とニコニコしながら話しかけてきたり一緒に考えようと誘ってきたりと言います。子どもたちがお年寄りのことを思いやり何かできないかと考える。それはお年寄りのためであると同時に、子どもたち自身の自己肯定感を高めることにもつながったようです。



万紀子さんは、授業で「福祉とは誰もが（ふ）だんの（へ）らしを（し）あわせにすること」だと伝えていたそう。これらの経験をを通じて、介護の仕事に興味を持つ子が出てくること。もちろん、介護の仕事には就かなくても、社会の中で福祉の視点を持った大人になってくれることを願い、小学校との連携を大切にしています。

**地域に溶け込み、  
地域と共に福祉を实践。  
連携しながら  
健康・長寿のまちへ。**

お茶とイチゴをはじめとする農産物などがたくさん採れて食が豊か、西ヶ谷運動場や静岡乗馬クラブ、そして自然の中でのウォーキングなど運動しやすい環境がある美和地区。暮らしやすく、福祉が充実しやすいポテンシャルを備えています。「このような恵まれた地域で、地元の人たちと協力して食と運動、そして福祉のネットワークを築き、健康・長寿のまちを創ってほしい」と考えています。そのために理事長は話します。そのために楽寿会がなすべきは、地域の暮らしを支える福祉・介護。地元に住む人たちが、住み慣れた土地で人生を全うする。エイジング・イン・プレイスの実践です。たとえ障がいや不自由があつたとしても、地域で、自宅で生活できるようにする。もちろん、必要な時には施設に入所することができ、しかし元気になれば再び地域、自宅へと帰っていく。そのような循環型の介護システムで、共生型の地域社会を創ることを目指しているのです。楽寿の園高齢者総合福祉エリアは、その地域福祉を实践する上

護に関わることでなく利用者にとつての生きがいや大切にしていることなども聞き取ったり、お話する前、玄関や室内の様子から暮らしの状況も見極めたりしていきます。主治医なども連携を密に取り、助言をいただきながら、医療・保健・福祉が一体となったケアマネジメントを实践。積極的に地域のコミュニティや地域ケア会議にも参加し情報収集を行なうことで、地域の力を支援につなげたりもします。地域や在宅福祉の窓口として、安心して心も体も満足できる暮らしを支えています。そして、地域福祉を具体的、有機的に機能させているのが、静岡市から受託している美和地域包括支援センター。社会福祉士、主任ケアマネジャー、看護師の3職種の職員が在籍し、総合相談、ネットワークづくり、介護予防、要支援者のマネジメントを担当。在宅介護をはじめ、保健・福祉・医療など様々なサービスを包括的に提供しています。例えば介護保険の利用方法などの具体的な相談から、近所の高齢者が閉じこもり気味で心配だというよううな声も拾い上げ、時には関係機関と連携して問題解決にあたり、要支援1もしくは2と認定された方には介護予防サービ



**日々、地域を駆け回る  
在宅支援に関わる職員。**

居宅介護支援センターのケアマネジャー、地域包括支援センターの職員をはじめ、デイサービスやショートステイの送迎など、楽寿会の車(約40台)が日々、地域を駆け回っています。いわば、地域福祉・在宅福祉の実働部隊です。



**「人生を丸ごと理解する、  
ためのヒアリング。」**  
ケアマネジャーがご自宅に伺い、ご本人やご家族から手助けをしてほしいことや、暮らし方の希望などをヒアリング。介護に関わることばかりでなく、利用者にとつての生きがいなども聞き取り、支援に反映していきます。

**地域に溶け込み、  
在宅介護を实践。**

美和地域包括支援センターの皆さん。地域を回って、高齢者のご自宅を訪ねて健康状態や生活能力を確認したり、地域住民の皆さんとのネットワークづくりをしています。交通安全の旗振りの方ともあいさつを交わす仲。



**私たちが窓口となり、  
誠心誠意サポートします！**

楽寿の園福祉エリア居宅介護支援センターの職員の皆さん。地域福祉の窓口として、様々な相談を受け、関係機関や地域とも連携し、医療・保健・福祉が一体となったケアマネジメントを实践しています。



スを利用するためのプランを作成、そうでない方でも体力が落ちたなど感じている場合には介護予防の体操教室や講演会を紹介したりもします。さらに、介護に疲れた家族の心のケアをし、負担を減らすための提案などを行なうことも。それにより虐待を防ぎ、高齢者の権利を守る役目も果たします。ここでも地域の民生委員、開業医、保健師などと協力することで、より効果的な支援提供に取り組んでいます。平成2年の老人福祉法改正前は高齢者を施設に入所させることが優先されていたのですが、楽寿会ではその頃から在宅福祉・地域福祉に力を注いできたと言います。楽寿の園をはじめとする施設の定員が350名であるのに対し、在宅支援の対象の方は2000名と遥かに多いのは、その現れでしょう。農業従事者の多い美和地区では、農繁期などに農家の方がご家族の介護を楽寿会に任せられれば安心して農業に臨むことができます。その結果、丹精込められた美味しい食の恩恵を受けることができ、地元住民は健康に。これこそが、今後も美和地区を豊かな地域として持続させていく在り方だと信じ、その実現に向け、楽寿会はいま進んでいます。

での拠点です。そこには、診療所、短期入所生活介護、居宅介護支援センターも備える特別養護老人ホーム、美和地域包括支援センター、訪問介護ステーションを併設し、通所リハビリテーション、短期入所療養介護を行なう介護老人保健施設、デイサービスセンター、グループホームらくじゅの家、ケアハウスサンライフらくじゅ、そして認知症の方のサービスが充実したデイサービスと、様々な介護を提供できる施設があります。中でも地域福祉、在宅福祉において欠かせないのが、居宅介護支援センターと地域包括支援センターの2つです。居宅介護支援センターは介護サービスを利用した具体的なプランを作成する機関。自分の家で暮らし続けたいけれど、誰かの手助けがほしい時があります。そんな時、居宅介護支援センターへ連絡するとケアマネジャーが自宅に伺い、「ご本人やご家族から「こんな手助けをしてほしい」「こんな暮らしをしたい」などをヒアリング。どこのどういった介護サービスが最適なのかを吟味したうえで、プランを提案してくれます。これを「アセスメント」と言いますが、楽寿会では、その人の人生を丸ごと理解することだと考え、ケアマネジャーは、直接介

最後に、今回訪問した方々を含め日頃から楽寿会とお付き合いのあるみなさんに集まっていただき、記念写真を撮影しました。自慢の農産物や商品、自社を象徴するアイテムを持っていただきながら、楽寿の園の有馬理事長、副園長の万紀子さんをはじめ、実際に地域に出掛けて福祉サービスを行なう居宅介護支援センターのケアマネジャー、美和地域包括支援センターのスタッフと共に、最高の笑顔、それぞれに役割分担をしながら支え合い、一緒に豊かな地域を創り上げる。これぞ、地域福祉の理想と言える姿を表現しています。

この笑顔を支えます！  
楽寿会が支えます！



楽寿会 会長兼理事長 有馬良建さん(元福祉大教授)、楽寿の園副園長 有馬万紀子さん、居宅介護支援センター・美和地域包括支援センター(まるケア美和)の皆さん、老人保健施設医師 前田利文さん(美和学区自治会連合会会長)、堀内金作さん(美和学区社会福祉推進協議会会長、美和桜を育てる会会長)、栗田里志さん・すみ江さん(いちご)、海野剛さん(消防第30分団長)、大久保広志さん(みかん・はっさく)、杉山晴子さん(かなの家のせっけん)、清水祐輔さん(清水養鶏場 美黄卵)、秋山衛さん(茶手揉保存会・ホウレン草・春菊)、松浦京子さん(美和小学校校長)、藤さん 谷康弘さん(お茶)

楽寿の園 高齢者総合福祉エリア  
Tel./054-296-1111 P06 MAP 02 参照

※新型コロナウイルス感染症対策のため撮影時のマスクを外しています。また、コロナ禍以前の写真も掲載しています。



## 地域の健康・長寿に欠かせない、豊かな食と豊かな自然。

楽寿会が理想とする健康・長寿のまちづくり。そのために重要な食や運動などの要素が、ここ美和地域には充実しています。恵まれた環境や素材と、それを支える人たちを取材しました。



### 伝統のお茶を守りながら、新しい手法で野菜も生産。

秋山さんは、お茶の生産者であると同時に茶手揉保存会の一員。手揉みをやってなんと60年！毎年、美和中学校で行なわれる手揉み体験での指導もしています。その手つきは圧巻でした。また、ホウレン草や水菜、春菊、ルッコラなど、野菜も生産。中でも「サラダホウレン草」や「サラダ春菊」のみずみずしい美味しさは感動もの！万紀子さんも、スーパーマーケットでよく購入しているそうです。水耕栽培という新しい手法を取り入れ、ベテランでありながらもまだまだ精力的に農業に従事している点も、地域の盛り上げにつながっているように感じます。



### 有馬理事長も太鼓判！美和のイチゴ。

豊富な農産物が生産されている美和地域ですが、中でも代表的かつ、有馬理事長も太鼓判を押すのがイチゴ。今回は、楽寿の園のご近所さんである栗田さんのハウスにお邪魔しました。美和地域は日当たりが良く、暖かい。そのうえ寒暖差があることで、しっかりと味のイチゴが育つそう。栗田さんのところでは、紅ほっぺの生産に加え、新種を試作中。「食べた人に美味しいと喜んでもらえるのが一番」と栽培環境や設備を改良、作業の効率化にも取り組んでいます。恵まれた環境を活かしながら、生産者の様々な工夫や手間があるからこそ、美和のイチゴは美味しいのです。

### 美和のスポーツ環境の象徴「静岡乗馬クラブ」

美和地区には、スポーツに適した環境も充実しています。静岡乗馬クラブはその象徴の1つでしょう。クラブをけん引する浅川さんは、15歳から馬術競技をはじめ、日本トップレベルで活躍。50歳の時に胸椎骨折の事故に遭いますが、パラ馬術に転向し2010年世界選手権、2012年ロンドンパラリンピックに出場した実績を持ちます。現在、東京パラリンピックの選手をはじめ、本格的な馬術競技の馬と選手を育成しています。実は、有馬理事長は国体に出場した経験を持つ元アスリート。今でも5キロのジョギングを日課とし、浅川さんとも言葉を交わすと言、「スポーツに理解がある人が同じ地域にいる、それを福祉や地域づくりに活かそうと考えてくれているのは心強い」と感じているそうです。



### 恵まれた自然環境の中で、心身ともに豊かに。

「東に川あり、西に道あり、北に山あり、南に拓ける土地あり、この地こそ人が集い生活していく上での理想郷となる」とは、楽寿会創立者である有馬孝子現名誉会長のお言葉。そして、ここ美和地区に創られたのが楽寿の園。まさに雄大な自然に抱かれる形で佇んでいます。裏手には土手が続き、地域の皆さんが毎日ここをウォーキングしたりジョギングしたりしているとのこと。またコロナ禍以前には、介護予防のためのウォーキング教室も開催。自然に囲まれて歩くのはとても心地良く、心身ともに健康になれそうです。2月中旬頃からは美和桜も美しく、タイミングが合えば、川原の馬場で乗馬クラブのみなさんが練習する風景を見ることもできます。

